

行事の  
聴く  
お話

# 七夕のお話

昔、天の国に織姫というお姫様がいました。

機織りが上手で、毎日きれいな布を織っています。天の王様は、よく働く織姫に、お婿さんを迎えることになりました。牛の世話をするまじめな若者、彦星です。

織姫と彦星は会うとすぐ、お互いに好きになりました。結婚すると楽しくて、仕事もせずに遊んでばかり。

それを見た王様は怒って、天の川を挟んで二人を離れ離れにしたのです。

毎日泣き続ける織姫と彦星。かわいそうになった王様は言いました。

「しっかり働いたら、一年に一度だけ会ってもよいぞ。」

そこで二人は一生懸命働き、七月七日の夜に、天の川で会えるようになったのです。

(おしまい)

● 聴くお話は、耳で聴いただけで、様子を思い浮かべたり、内容を理解したりするお話です。小学生になっても必要とされる、「話を聴いて理解し、考えたり行動したりする力」を育てます。行事の導入や、ちょっとした空き時間にぜひご利用ください。

